



「地域経済活性化を通じた面的支援」に関する調査研究

地域資源・観光等を活用した地域経済活性化事例

テーマ：B.観光開発・観光振興

事例
B-④

兵庫県・南あわじ市商工会
うずしお温泉の「べっぴんの湯」ブランド化支援

(平成27年10月取材)

1. 面的支援の概要

(1) 活動・支援のきっかけ

① 地域の状況

「うずしお温泉」は、南あわじ市の西南、鳴門海峡を臨む景勝地にあり、21軒の宿や入浴施設を抱えている。炭酸水素イオンを多く含む泉質が特徴で、肌をなめらかにする美人湯として女性に人気がある。また、鳴門海峡の鯛をはじめとする新鮮な特産物の料理が楽しめる点も高い評価を得ている。

しかし、知名度が低い、4地区にまたがり施設が点在しており、一かたまりの温泉地という感じが乏しい、などの問題を抱えていた。そんな中、平成22年に南あわじ市商工会の事務局長（当時）が、うずしお温泉組合の藤川理事長より「温泉の成分を打出したPRをしたい」という相談を受けたことにより、商工会と組合の連携による「べっぴんの湯 うずしお温泉」の観光振興活動が始まった。

② 商工会による活動・支援のきっかけ

平成22年度から、兵庫県商工会連合会の助成金を活用して、温泉を原材料にした化粧品開発等を進めた。その結果、うずしお温泉の源泉を使った「美人肌水（ミスト）」や「美人肌せっけん」が開発された。また、HPやパンフレットも整備した。この年度から、伊藤課長と富岡指導員がペアで支援を進める体制となっている。

平成24年度は、椿の植樹による景観整備を行ったが、翌平成25年度は、∞全国展開事業を活用して、うずしお温泉の大々的なPR活動を展開した。

(2) 支援概略と特徴

① 平成25年度の活動と以降の支援概略

平成25年度は、PR・プロモーションと商品開発など多層的な活動を行った。旅行雑誌「じゃらん」や女性ライダー専門誌への広告掲載や、「じゃらん」と提携した無料PR誌作成、ABC朝日放送ラジオの人気番組内でのPR、神戸三宮での壁面CMの放映など、マスメディアを活用した広告・PR活動を矢継ぎ早に展開すると共に、首都圏での「旅フェア日本」や「観光商談マッチングフェア」への出展や、道の駅でのうずしお温泉の「手湯体験」など淡路島来訪の観光客に対するプロモーションも実施している。また、新たにフェイスマスクや化粧水、入浴錠を試作開発したほか、料理やエステなど美容をテーマにした観光プランを策定して商談に活用した。

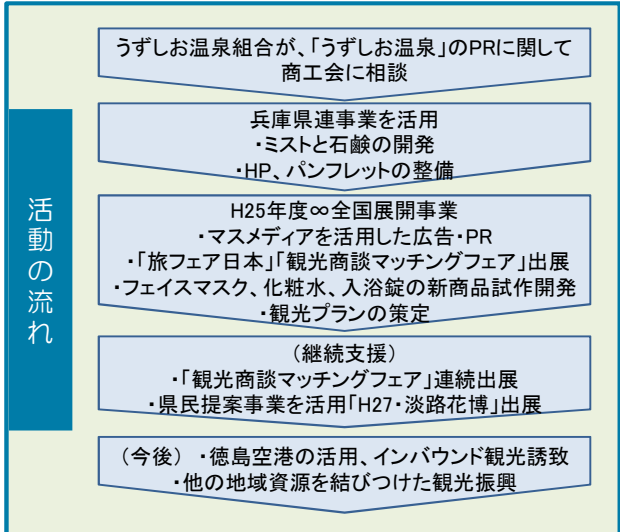
平成26年度以降も、商工会予算による「観光商談マッチングフェア」への連続出展支援や、県民提案事業を活用した「淡路花博」（平成27年3～5月）でのプロモーション支援など、伊藤課長と富岡指導員のペア支援は続いている。

② 支援手法の特徴

本支援活動の特徴は、組合と商工会の連携である。組合と連携して、組合としての活動を支援している。伊藤課長は、「業界の発展により個社の経営が向上するのだから、組合と連携するのは、①面的な波及が期待出来る ②公平性を担保出来る の2点から、良い支援方法であると考えている。」と語ってくれた。

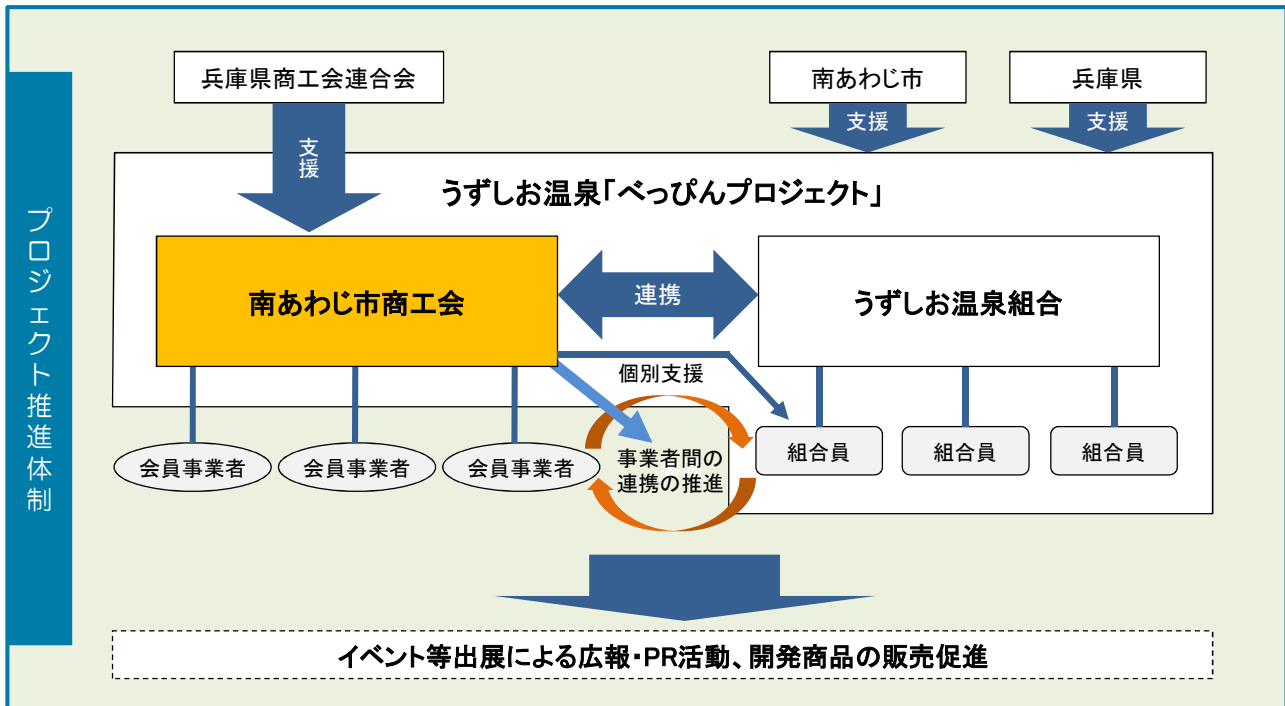


上：商工会の支援で作られた「うずしお温泉組合」のHP (<http://awajiiinfo.com/uzushio-onsen/>)。右：「べっぴん湯 うずしお温泉」の看板。施設が点在しいわゆる温泉街というものがいないため、インパクトのあるスローガンで統一イメージを持たせることが重要となる。うずしお温泉組合では、泉質という組合員の共通事項に焦点を絞り、「べっぴんの湯」というスローガンを採用した。



兵庫県・南あわじ市商工会
うずしお温泉の「べっぴんの湯」ブランド化支援

2. 支援組織・地域内連携スキーム



(1) 事業全体の運営スキーム

事業は、南あわじ市商工会とうずしお温泉組合との連携によって進められている。活動の大きな枠組みは、商工会が組合と連携しながら策定するが、活動自体は組合が主体となって進めるスキームとなっている。

全体的なPRやプロモーションは、商工会が独自予算や施策を活用して支援を行い、商品製造や販売に関しては組合が担当している。また、個々の取組みに関しては、組合を通じて組合員が行っている。商工会では、個々の組合員のニーズに応じた個別支援を行っている。

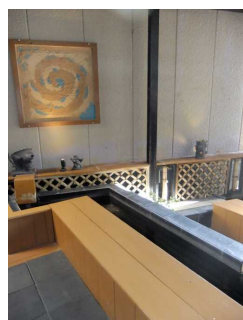
(2) 地域内の事業者間の連携促進

観光の魅力創りは、一つの業界だけで進められるものではない。

今回の事例は、宿泊・観光施設と連携した活動だが、南あわじ市には、鯛やわかめなどの海産物や、ブランド化された玉ねぎ、レタス、淡路牛といった農・畜産物、淡路瓦、そして人形浄瑠璃など多くの地域資源がある。商工会では、商工会の重要な機能の一つである“繋ぎ力”を発揮して、市内の事業者同士の連携を促進し、「宿泊+買物・飲食+体験」を合わせた魅力創りを進め、地域の面的な取組みとしたいと考えている。



うずしお温泉組合の藤川理事長(右)と福岡指導員。藤川理事長が経営する「うずしお温泉 うめ丸」のエントランスにて。藤川理事長は、商工会の理事も務めており、商工会と組合が連携して進める活動の中心人物でもある。



南あわじ市商工会・経営支援課の伊藤課長。伊藤課長は平成23年に異動してきて以来、本活動を担当している。他所から移ってきた課長の目には、南あわじ市は観光資源が豊富な地と映っている。これ等を組合せて魅力創りを行えば、南あわじ市の観光はもっと振興できると考えている。



「うずしお温泉 うめ丸」の足湯。うずしお温泉の泉質は、炭酸水素イオンの含有量が多くなめらかな感触で、皮膚をやわらかくして分泌物を洗い流すため、皮膚をきれいにする効果がある、いわゆる「美人湯」の一つである。

兵庫県・南あわじ市商工会
うずしお温泉の「べっぴんの湯」ブランド化支援

3 成果・地域への影響

① 温泉のイメージの確立とブランド化

「べっぴんの湯」というスローガンを掲げ組合で取組んだことにより、「うずしお温泉」としての統一イメージが作れた。当温泉は複数の地区にまたがっているが、それを面として訴求できる。全国でも有数の美肌効果の高い温泉であることは、大きなセールスポイントとなる。

今年はシルバーウィークもあり、各施設の集客状況は悪くないとのことである。「べっぴんの湯」というコンセプトが浸透した結果であるか図るのは難しいが、中・長期的にPRを継続することで、確実にブランドが形成されていくと思われる。

また、活動を通して組合がまとまり、組合員の団結力が高まったことも、成果として挙げられる。

② べっぴん商品の開発と美肌イメージの形成

活動は、「美人肌化粧水」「美人肌水（ミスト）」「美人肌せっけん」「べっぴんフェイスマスク」「発泡入浴錠」など、べっぴん商品を生み出した。これらは、うずしお温泉組合で製造し、組合と組合員で販売している。施設内販売等で、平成27年度上半期は、化粧水約200本、ミスト約400本、せっけん約300個、フェイスマスク約100枚、

入浴錠約150セットを販売した。これらの商品は、組合や組合員に収益をもたらすと共に、イベント等において注目を集める“フック”に活用できるなど、うずしお温泉と美肌のイメージ形成に大きな役割を果たしている。

③ 商工会のノウハウ向上と横展開

一連の支援についての噂が広まり、今南あわじ市商工会に、他の温泉旅館からの支援要請が来ているという。本活動を通して支援スキルを獲得し、それを他に展開していくという、支援の理想的な形を作って行けそうである。

うずしお温泉組合が開発したべっぴん商品。化粧水やミスト、せっけん、フェイスマスク、発泡入浴錠など、うずしお温泉の源泉を使った美肌化粧品5点を製造・販売している。



4 今後の計画

① PR・プロモーション支援の継続、集客支援

商工会では、平成26年から続けてきた「観光商談マッチングフェア」の出展支援を次年度も行う予定である。また伊藤課長は、徳島空港を活用した東京からの集客や、JTBと提携したアジアからのインバウンド観光誘致ができないかとも考えている。前者には行政の協力が、後者には受入体制の整備が必要となるが、中期的な計画として、働きかけていくつもりである。

② 新たな観光魅力の開発

伊藤課長、富岡指導員は、複数の資源を組合わせた観光魅力を作る必要があると考えている。平成24年に取組んだ椿の植樹はそのための準備でもあった。椿の“美と健康”のイメージを活用して、椿の油を活用した低カロリー食開発や椿の花や実と関連した特別イベントの開催、椿+うずしお温泉の化粧品開発など、うずしお温泉郷と連携して新たな観光の魅力を開発していくつもりである。

5 地域経済活性化のポイント・商工会（指導員）の役割

【ポイント】

- ① 組合と連携することで、業界全体の底上げと面的な波及効果を図っている。
- ② <組合内の事業者全員が共通に持つ資源＝温泉>の泉質の特徴を謳ったスローガン「べっぴんの湯」を掲げることで、ブランド化に必要な統一イメージを創ることができた。また、事業者（組合員）間の合意も取付けられた。
- ③ 施策を活用して、事業者や組合単独では難しい大々的なPRやプロモーションを行うことで、知名度向上やイメージの浸透を図り、活動を大きく進めた。

【商工会（指導員）の役割】

- ① 商工会ならではの視点で観光の魅力創りを行い、集客の仕掛けを作る。
- ② 最初に方向性を決めた後で、継続したPR・プロモーション支援を行い、発展を支援する。
- ③ 県連や行政（市・県）との連携により、有益な施策情報を収集し、活用する。今年度の「淡路花博」への出展は、商工会と県との密な連携により実現した。